

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

# デーヴォ ガイド



2021.3.29～4.4

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

26:69 ペテロが外の中庭にすわっていると、女中のひとりが来て言った。「あなたも、ガリラヤ人イエスといっしょにいましたね。」  
26:70 しかし、ペテロはみなの前でそれを打ち消して、「何を言っているのか、私にはわからない。」と言った。

26:71 そして、ペテロが入口まで出て行くと、ほかの女中が、彼を見て、そこにいる人々に言った。「この人はナザレ人イエスといっしょでした。」

26:72 それで、ペテロは、またもそれを打ち消し、誓って、「そんな人は知らない。」と言った。

26:73 しばらくすると、そのあたりに立っている人々がペテロに近寄って来て、「確かに、あなたもあの仲間だ。ことばのなまりではつきりわかる。」と言った。

26:74 すると彼は、「そんな人は知らない。」と言って、のろいをかけて誓い始めた。するとすぐに、鶏が鳴いた。

26:75 そこでペテロは、「鶏が鳴く前に三度、あなたは、わたしを知らないと言います。」とイエスの言われたあのことばを思い出した。そうして、彼は出て行って、激しく泣いた。

この世は完全にイエス様の敵となりました。ペテロは自分のいのちを守るためには、ここでは「そんな者ではない」と否定するしかありませんでした。

イエス様の「(あなたは)ふるいにかげられる」との警告に対して、ペテロは謙遜に受け入れるどころか、「覚悟はできています」と大口をたたいてしまいました。その結果が「そんな人は知らない。」という裏切りでした。

彼は自分の信仰を過信していたのです。誰もが自分には信仰を持ち続ける、あの人のような罪を犯すこ

とはない、あれくらの奉仕なら自分ならやり遂げられるなどと思ってしまうものですが、状況と違いものは変わるものです。

自分は弱い存在であること、今の状態は続かないかもしれないということを知り、謙遜でありましょう。そして謙遜ゆえに主の力に依り頼んで行きましょう。

イエス様は彼の裏切りをあらかじめ知っておられ、それを彼に伝えました。彼が「イエスの言われたあのことば」を思い出したためです。またそれは彼をとがめるためではなく、彼のその後に赦しと希望を与えるためです。

イエス様の弟子として歩むことには、大きな報いの祝福が約束されていますが、それは後のペテロのように、聖霊によらなければ不可能なのです。

裏切ったペテロは後に、復活の主によって赦されて尊い使命が与えられました。さらに聖霊に満たされて、キリストの証人になりました。

謙遜に主に従いつつ、聖霊によってイエス様の弟子としての生き方を全うして、すばらしい報いをいただきましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



27:1 さて、夜が明けると、祭司長、民の長老たち全員は、イエスを死刑にするために協議した。

27:2 それから、イエスを縛って連れ出し、総督ピラトに引き渡した。

27:3 そのとき、イエスを売ったユダは、イエスが罪に定められたのを知って後悔し、銀貨三十枚を、祭司長、長老たちに返して、

27:4 「私は罪を犯した。罪のない人の血を売ったりして。」と言った。しかし、彼らは、「私たちの知ったことか。自分で始末することだ。」と言った。

27:5 それで、彼は銀貨を神殿に投げ込んで立ち去った。そして、外に出て行って、首をつった。

27:6 祭司長たちは銀貨を取って、「これを神殿の金庫に入れるのはよくない。血の代価だから。」と言った。

27:7 彼らは相談して、その金で陶器師の畑を買い、旅人たちの墓地にした。

27:8 それで、その畑は、今でも血の畑と呼ばれている。

27:9 そのとき、預言者エレミヤを通して言われた事が成就した。「彼らは銀貨三十枚を取った。イスラエルの人々に値積もりされた人の値段である。

27:10 彼らは、主が私にお命じになったように、その金を払って、陶器師の畑を買った。」

「ユダは、イエスが罪に定められたのを知って後悔し」とありますから、彼はイエス様が何かの力を使って、死刑にならないようにするのだと期待していたのかもしれませんが。または何か自分の期待通り

でないイエス様に怒り、仕返しの思いもあったかもしれませんが。その動機ははっきり書かれていませんが、彼は身勝手な理由でイエス様を売って、お金を手に入れたのです。その結果は目論見通りと納得したのではなく、後悔でした。

ここで分かることは、自分勝手な神観は危ないということです。それは身勝手な失望と不従順につながります。何事も神様に聞いて、つなり聖書に聞いて、神様の御心を理解しなければ、間違っ

てしまいます。また後悔と悔い改めは違うということです。悔い改めと日本語では訳しますが、原語では方向転換という意味です。向きを変えて、過去の罪を振り払って前進するのです。どのようにして罪を振り払うことができるのでしょうか。それは十字架の贖罪と赦しです。

十字架に架かってくださった神である主という、神観をしっかりと持って、それゆえに過去の罪も失敗も赦していただいて、新しくしていただいて、向きを換えて出発して行きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



27:11 さて、イエスは総督の前に立たれた。すると、総督はイエスに「あなたは、ユダヤ人の王ですか。」と尋ねた。イエスは彼に「そのとおりです。」と言われた。

27:12 しかし、祭司長、長老たちから訴えがなされたときは、何もお答えにならなかった。

27:13 そのとき、ピラトはイエスに言った。「あんなにいろいろとあなたに不利な証言をしているのに、聞こえないのですか。」

27:14 それでも、イエスは、どんな訴えに対しても一言もお答えにならなかった。それには総督も非常に驚いた。

27:15 ところで総督は、その祭りには、群衆のために、いつも望みの囚人をひとりだけ赦免してやっていた。

27:16 そのころ、バラバという名の知れた囚人が捕えられていた。

27:17 それで、彼らが集まったとき、ピラトが言った。「あなたがたは、だれを釈放してほしいのか。バラバか、それともキリストと呼ばれているイエスか。」

27:18 ピラトは、彼らがねたまからイエスを引き渡したことに気づいていたのである。

27:19 また、ピラトが裁判の席に着いていたとき、彼の妻が彼のもとに人をやって言わせた。「あの正しい人にはかかわり合わないでください。ゆうべ、私は夢で、あの人のことで苦しいめに会いましたから。」

27:20 しかし、祭司長、長老たちは、バラバのほうを願うよう、そして、イエスを死刑にするよう、群衆を説きつけた。

27:21 しかし、総督は彼らに答えて言った。「あなたがたは、ふたりのうちどちらを釈放

してほしいのか。」彼らは言った。「バラバだ。」

27:22 ピラトは彼らに言った。「では、キリストと言われているイエスを私はどのようにしようか。」彼らはいっせいに言った。「十字架につける。」

27:23 だが、ピラトは言った。「あの人がどんな悪い事をしたというのか。」しかし、彼らはますます激しく「十字架につける。」と叫び続けた。

27:24 そこでピラトは、自分では手の下しようがなくて、かえって暴動になりそうなものを見て、群衆の目の前で水を取り寄せ、手を洗って、言った。「この人の血について、私には責任がない。自分たちで始末するがよい。」

27:25 すると、民衆はみな答えて言った。「その人の血は、私たちや子どもたちの上にかかってもいい。」

27:26 そこで、ピラトは彼らのためにバラバを釈放し、イエスをむち打ってから、十字架につけるために引き渡した。

ユダヤ人たちがピラトに迫り決断させることによって、死刑とそれに関わるすべての預言が成就しました。神様の計画は、敵の身勝手な行動さえも用いて実現するのです。

ピラトは、自分の在任中にイスラエル人の暴動が起きると責任問題になるので、それを恐れて保身のために、イエス様を十字架につけると要求に屈しました。人は信仰の真理や正しいことを知っているだけでは足りなく、それを行わなければなりません。ときには自分に不利になることがあっても正しいことを決断しましょう。

「それでも、イエスは…一言もお答えにならなかった」とあります。イエス様は全てを父なる神にお任せするという、最も効果的で力ある道を

知っておられたのです。私たちは自分の不利に際して、あせってあれやこれやと言いたくなるものです。または立場が悪くならないようにと、時には相手をやり込めたくなるものです。

全能の神のみこころに委ねること、これが本当に力ある者なのです。また、時には何も申し開きの機会が与えられないまま、悔しい思いをすることがあるかも知れません。そのときも御父に委ねることのすばらしさを感じましょう。イエス様と同じ道を歩むことができるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 1日 木曜

### マタイ



27:27 それから、総督の兵士たちは、イエスを官邸の中に連れて行って、イエスの回りに全部隊を集めた。

27:28 そして、イエスの着物を脱がせて、緋色の上着を着せた。

27:29 それから、いばらで冠を編み、頭にかぶらせ、右手に葦を持たせた。そして、彼らはイエスの前にひざまずいて、からかって言った。「ユダヤ人の王さま。ばんざい。」

27:30 また彼らはイエスにつばきをかけ、葦を取り上げてイエスの頭をたたいた。

27:31 こんなふうに、イエスをからかったあけく、その着物を脱がせて、もとの着物を着せ、十字架につけるために連れ出した。

27:32 そして、彼らが出て行くと、シモンというクレネ人を見つけたので、彼らは、この人にイエスの十字架を、むりやりに背負わせた。

27:33 ゴルゴタという所（「どくろ」と言われている場所）に来てから、

27:34 彼らはイエスに、苦みを混ぜたぶどう酒を飲ませようとした。イエスはそれをなめただけで、飲もうとはされなかった。

27:35 こうして、イエスを十字架につけてから、彼らはくじを引いて、イエスの着物を分け、

27:36 そこにすわって、イエスの見張りをした。

27:37 また、イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王イエスである。」と書いた罪状書きを掲げた。

27:38 そのとき、イエスといっしょに、ふたりの強盗が、ひとりには右に、ひとりには左に、

十字架につけられた。

27:39 道を行く人々は、頭を振りながらイエスをののしって、

27:40 言った。「神殿を打ちこわして三日で建てる人よ。もし、神の子なら、自分を救ってみろ。十字架から降りて来い。」

27:41 同じように、祭司長たちも律法学者、長老たちといっしょになって、イエスをあざけて言った。

27:42 「彼は他人を救ったが、自分は救えない。イスラエルの王さまなら、今、十字架から降りてもらおうか。そうしたら、われわれは信じるから。」

27:43 彼は神により頼んでいる。もし神のお気に入りなら、いま救っていただくがいい。『わたしは神の子だ。』と言っているのだから。」

27:44 イエスといっしょに十字架につけられた強盗どもも、同じようにイエスをののしった。

主イエスを愛し、その御思いに少しでも近づきたいという信仰でこの箇所を読みましょう。そしてその一つ一つの苦しみが、自分自身のためであったことを覚えましょう。

「紫の衣」は高貴な人が着るものですが、ここでは明かにイエス様をからかい馬鹿にしたものです。王と自称してもこの有様だと言わんばかりです。その極めつけとして、高貴な人が被る王冠をいばらで編んで、これを頭に食い込ませました。数センチの長い棘は頭全体からこめかみまで食い込みました。その顔は血だらけになったでしょう。

そのような中でクレネ人、シモンはイエス様をお助けすることができました。はじめは「むりやり」に背負わされたのですが、最後の十字架のところまで負い続けたのです。これも御父なる神様の導きであると考えられます。もしも不本意な中

で背負わされた重荷があるなら、主イエスの役に立てるなら…と思いを新たに、十字架を負い直してみましょう。必ず新しい喜びが生まれるはずです。

「苦みを混ぜたぶどう酒」は十字架の苦しみを和らげるためですが、イエス様はそれを拒否なさいました。苦しみを余すところなく受けるためです。イエス様はそれほどの覚悟を持って私たちを救ってくださったのです。どんな時でもどんなことでも、イエス様は愛を差し控えるような方ではありません。私たちは自分が主イエス様の無限の愛に包まれていることを、常に感じて生きるのです。

「着物」とは一枚の大きなもので、物資の乏しかった当時は、一生大切に着るものでした。母は息子が12歳で成人するときに、愛情と祈りを込めて織ったそうです。それを面白がってくじを引くほどに、イエス様は嘲弄されたのです。さらにはそれを見ていた「イエスの母」マリアは心が張り裂けるほどだったでしょう。

イエス様は十字架に釘打たれました。犯罪人と一緒ということは、ご自身が罪あるものとみなされたということです。私たちは自分の罪を負ってくださった主イエス様に感謝しましょう。自分が犯している、または犯してしまった罪のために、このように苦しめられたのだということを覚えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## 2日 金曜

### マタイ

27:45 さて、十二時から、全地が暗くなつて、三時まで続いた。

27:46 三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」と叫ばれた。これは、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」という意味である。

27:47 すると、それを聞いて、そこに立っていた人々のうち、ある人たちは、「この人はエリヤを呼んでいる。」と言った。

27:48 また、彼らのひとりがすぐ走って行って、海綿を取り、それに酸いぶどう酒を含ませて、葦の棒につけ、イエスに飲ませようとした。

27:49 ほかの者たちは、「私たちはエリヤが助けに来るかどうかわかることとしよう。」と言った。

27:50 そのとき、イエスはもう一度大声で叫んで、息を引き取られた。

27:51 すると、見よ。神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。そして、地が揺れ動き、岩が裂けた。

27:52 また、墓が開いて、眠っていた多くの聖徒たちのからだが生き返った。

27:53 そして、イエスの復活の後に墓から出て来て、聖都にはいって多くの人に現われた。

27:54 百人隊長および彼といっしょにイエスの見張りをしていた人々は、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れを感じ、「この方はまことに神の子であった。」と言った。

27:55 そこには、遠くからながめている女たちがたくさんいた。イエスに仕えてガリラヤからついて来た女たちであった。



27:56 その中に、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフとの母マリヤ、ゼベダイの子らの母がいた。

十字架につけられる場面は、聖書では簡潔に書かれています。十字架刑は体に釘が打たれるだけでも激しい痛みですが、それだけではありません。体を貫通した釘に体重がかかって、激痛と大量の出血が起こります。また肩にかかる力によって、呼吸困難になり、恐ろしい苦しみがかかります。肩の関節や肋骨も歪み、はずれたことでしょう。イエス様は全身から血を噴き出させながら、体を激しく震わせたと思われます。そのような状況で以下にある出来事が起きました。

「どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」ということばは、詩篇22篇にあります。イエス様はダビデがご自分の苦難のひな型であることを知っておられたので、このみことばを告白しながら耐えたのだと思われます。イエス様が旧約の預言・約束としてご自身が十字架に架かり、救いを成し遂げようとしておられることがわかります。

「大声で叫んで、息を引き取られた。」という記述から、その苦しみは極みに達していたことが分ります。そしてイエス様の肉体は完全に死んだのです。そのとき「神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。」とあります。この幕は聖なる神と人間とを分ける幕でしたが、人類の罪をイエス様が負ってくださったことにより、聖なる神に人間が近づけるようになったことを表します。どんなときも、どんな魂の状態でも、主に近づきましょう。そのための十字架の御苦しみだったのでから。

イエス様の十字架のそばには様々な人々がおり、女性もいました。当時女性はさげすまれていて、人数には入れられなかったのですが、神様は女性をも尊重し、男女に優劣はつけてはおられません。ここでも多くの女性達が危険を顧みず勇気を持って、イエス様の側近くで見守っていました。それはイエス様への信仰の表れでもあります。

当時の女性のように人間からは尊重されてい

ようでも、主から信仰が与えられたならば、強よめられてすばらしい動きをすることができます。主と主への信仰に可能性があるのですから、雄雄しく主から離れずに歩みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ▶ 3日 土曜

### マタイ



27:57 夕方になって、アリマタヤの金持ちでヨセフという人が来た。彼もイエスの弟子になっていた。

27:58 この人はピラトのところに行って、イエスのからだの下げ渡しを願った。そこで、ピラトは、渡すように命じた。

27:59 ヨセフはそれを取り降ろして、きれいな亜麻布に包み、

27:60 岩を掘って造った自分の新しい墓に納めた。墓の入口には大きな石をころがしかけて帰った。

27:61 そこにはマグダラのマリヤとほかのマリヤとが墓のほうを向いてすわっていた。

27:62 さて、次の日、すなわち備えの日の翌日、祭司長、パリサイ人たちはピラトのところに集まって、

27:63 こう言った。「閣下。あの、人をだます男がまだ生きていたとき、『自分は三日の後によみがえる。』と言っていたのを思い出しました。

27:64 ですから、三日目まで墓の番をするように命じてください。そうでないと、弟子たちが来て、彼を盗み出して、『死人の中からよみがえった。』と民衆に言うかもしれません。そうなると、この惑わしのほうが、前のばあいより、もっとひどいことになります。」

27:65 ピラトは「番兵を出してやるから、行っただけの番をさせるがよい。」と彼らに言った。

27:66 そこで、彼らは行って、石に封印をし、番兵が墓の番をした。

アリマタヤのヨセフは、イエスを死罪に定めた議会の一員です。敵と思われるような人々の中からも救いは起きるのです。大きな励ましです。彼はまだ周囲を恐れていたようでしたが、それでも主は用いてくださるのです。ここにも慰めがあります。

おそらく十字架のイエス様を見たときに彼は、まさにこの方が神の子であることを確信したのでしょう。イエスの遺体を埋葬するなどということは、その仲間であることを表明することですから、その身に危険が及びますし、また議員としての地位もなくすことでした。それでも彼は信仰を表明しました。

そしてこのことがイエス様の復活を明確なかたちとしました。墓からのよみがえり、そしてローマ兵やローマ当局の対応など、墓があったからその資料が残ったのであり、復活が明確になったのです。

主イエスが神であることを知ったなら、またその思いを新たにしたら、勇気を持って主のためにできることをしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



28:1 さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方、マグダラのマリヤと、ほかのマリヤが墓を見に来た。

28:2 すると、大きな地震が起こった。それは、主の使いが天から降りて来て、石をわきへころがして、その上にすわったからである。

28:3 その顔は、いなずまのように輝き、その衣は雪のように白かった。

28:4 番兵たちは、御使いを見て恐ろしさのあまり震え上がり、死人のようになった。

28:5 すると、御使いは女たちに言った。「恐れてはいけません。あなたがたが十字架につけられたイエスを捜しているのを、私は知っています。

28:6 ここにはおられません。前から言っておられたように、よみがえられたからです。来て、納めてあった場所を見てごらん下さい。

28:7 ですから急いで行って、お弟子たちにこのことを知らせなさい。イエスが死人の中からよみがえられたこと、そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれ、あなたがたは、そこで、お会いできるということです。では、これだけはお伝えしました。」

28:8 そこで、彼女たちは、恐ろしくはあったが大喜びで、急いで墓を離れ、弟子たちに知らせに走って行った。

28:9 すると、イエスが彼女たちに会って、「おはよう。」と言われた。彼女たちは近寄って御足を抱いてイエスを拜んだ。

28:10 すると、イエスは言われた。「恐れてはいけません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えるのです。」

28:11 女たちが行き着かないうちに、もう、数人の番兵が都に来て、起こった事を全部、祭司長たちに報告した。

28:12 そこで、祭司長たちは民の長老たちとともに集まって協議し、兵士たちに多額の金を与えて、

28:13 こう言った。「『夜、私たちが眠っている間に、弟子たちがやって来て、イエスを盗んで行った。』と言うのだ。

28:14 もし、このことが総督の耳にはいっても、私たちがうまく説得して、あなたがたには心配をかけないようにするから。」

28:15 そこで、彼らは金をもって、指図されたとおりにした。それで、この話が広くユダヤ人の間に広まって今日に及んでいる。

28:16 しかし、十一人の弟子たちは、ガリラヤに行って、イエスの指示された山に登った。

28:17 そして、イエスにお会いしたとき、彼らは礼拝した。しかし、ある者は疑った。

28:18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。

28:19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、

28:20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

ろうと思ったわけではありませんでした。ただイエスを愛するゆえに墓に行ったのです。期待も希望も砕かれて意気消沈している中で、それでもエス様への愛を表したのです。私たちも、目的や期待感にも増して、イエス様を愛する者でありたいと思います。

「ある者は疑った。」とあります。弟子たちでさえ復活を信じるのができませんでした。人は死に対しては希望を持つこともできないほど無力なのです。しかし信じるのができなくても、事実を見ることはできます。だから歴史的に記録が残されているのです。それが復活の信仰です。

イエス様はよみがえられました。それは死への勝利を意味します。サタンは敗北です。これが私たちの希望です。サタンが敗北したということは、私たちが苦難の中にあっても、かならず主の恵の計画が成就するということです。そして私たちも同じようによみがえるのです。

イエス様はその権威のゆえに、信じる者たちに使命を与えられました。私たちも、この大弟子化命令を受け取って行きましょう。

すなわち、自分自身がイエス様の弟子となり、愛と宣教によって弟子を育てて行きましょう。それがクリスチャンの基本姿勢です。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

女性たちは第一証言者となりましたが、そんな